

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 7 号を発表したので送付します。

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 7 号

令和 8 年 8 月 3 日
徳 島 県

I. 普通作物

普通期水稻

穂いもち(令和 8 年 7 月 7 日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少～中」
ただし、西部地域では平年よりやや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) 7 月 24～31 日に行った巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が 43.5%、発病度が 3.0 と、平年(47.6%、3.8)並の発生である。ただし、西部地域では、葉いもちの発生圃場率が 70.0%、発病度が 6.3 と、平年(51.9%、3.9)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が 7 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生の多い圃場では、出穂直前までに薬剤防除を行う。
- (2) 出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7 月 24～31 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 26.1%と、平年(43.5%)に比べてやや低く、発病株率が 2.6%と、平年(8.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方气象台が 7 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 粒剤による防除は、出穂 30 日～10 日前頃に行う。
- (2) 茎葉散布剤による防除は、幼穂形成期～穂ばらみ期に行う。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が13.0%、株当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(55.0%、0.2頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が4.3%、株当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(0.8%、0.0頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、発生を認めたら速やかに防除を行う。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、23調査地点のうち17地点で生息を確認した。捕獲地点率が73.9%と、平年(73.2%)並の発生であるが、地点当たりの捕獲虫数が6.6頭と、平年(12.1頭)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。
- (2) 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追いつ込むことになるので行わない。
- (3) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (4) 薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が17.4%、被害株率が0.7%と、平年(13.3%、0.8%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 現在葉巻内で加害している老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低いので、次世代の若齢幼虫を対象に防除する。
- (2) 過肥田や肥料切れの悪い湿田で多発する傾向があるので、窒素質肥料の施用は控えめにする。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が100%と平年(99.3%)並の発生であるが、葉の被害度は9.1と、平年(17.2)に比べてやや低い。
- (2) 同調査では、シロイチモジヨトウによる被害発生圃場率が25.0%、葉の被害度が0.4と、平年(6.3%、0.1)に比べて高い。
- (3) 7月のフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は、平年に比べてやや少なく推移している(図1)。またシロイチモジヨトウの誘殺数は、25日までの平均誘殺数が2,193頭と、平年(913頭)の約2.4倍誘殺された(図2)。
- (4) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

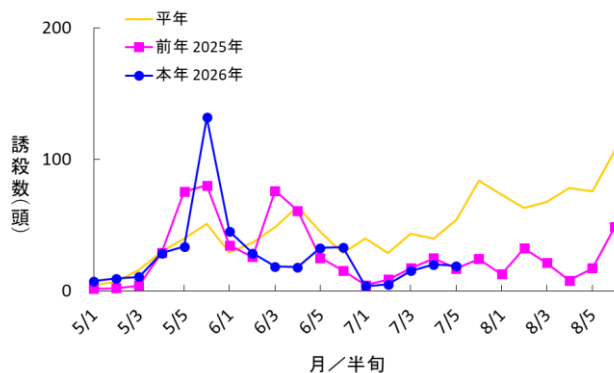


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)
* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

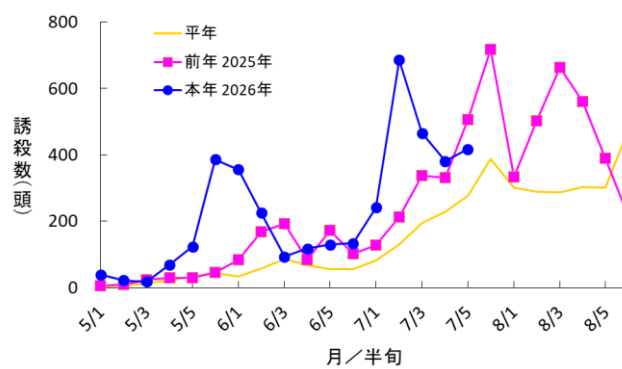


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)
* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生葉率は18.8%と、平年(12.6%、1.3%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

Ⅱ. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平成(61.7%)に比べてやや低い、発病率は9.3%と、平成(6.0%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平成より高く、降水量と日照時間はほぼ平成並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今春、病斑が目立った園及び多発生園では、防除を徹底する。

果樹共通

カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等) (令和8年5月13日、8月3日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平成より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行ったカキにおける巡回調査では、被害果を認めていない(平成同時期は、被害果の発生圃場率が6.7%、被害果率が0.3%)。
- (2) 7月1～25日の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが801頭と、平成(183頭)の4.4倍、チャバネアオカメムシが1266頭と、平成(310頭)の4.1倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシが448頭と、平成(67頭)の6.7倍誘殺されたが、チャバネアオカメムシは190頭と、平成(242頭)並の誘殺となった(表1)。
- (3) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平成より高く、降水量と日照時間はほぼ平成並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平成	2026年	2025年	平成
7	1	62	2	49	105	1	17
	2	95	0	25	110	3	14
	3	132	0	33	65	0	8
	4	119	7	41	60	1	22
	5	393	4	35	108	0	7
	6		14	73		2	18

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平成	2026年	2025年	平成
7	1	168	1	53	28	0	69
	2	124	0	73	41	0	59
	3	294	2	48	34	6	24
	4	409	3	88	36	3	57
	5	271	3	49	51	0	33
	6		6	128		5	58

表1 果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平成並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平成(16.7%)並の発生であるが、発病率は0.1%と、平成(0.8%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平成より高く、降水量と日照時間はほぼ平成並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (4) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、展着剤を利用する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.3%、1葉当たりの寄生虫数が0.0頭)。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が3.3%と、平年(32.7%、4.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生葉率が0.1%と、平年(49.9%、1.4%)に比べて低い。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.6%、被害果率が0.6%)。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、産下卵確認圃場率が22.2%、100葉当たり平均卵数が0.2個と、平年(29.9%、0.5個)並の発生である。幼虫による被害果実の発生圃場率は33.3%、被害果率が0.6%と、平年(7.9%、0.1%)に比べて高い。
- (2) 7月のフェロモントラップへの誘殺数は、25日まで平年並に推移しているが、平年よりも発生が10日程早まっている(図3)。
- (3) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

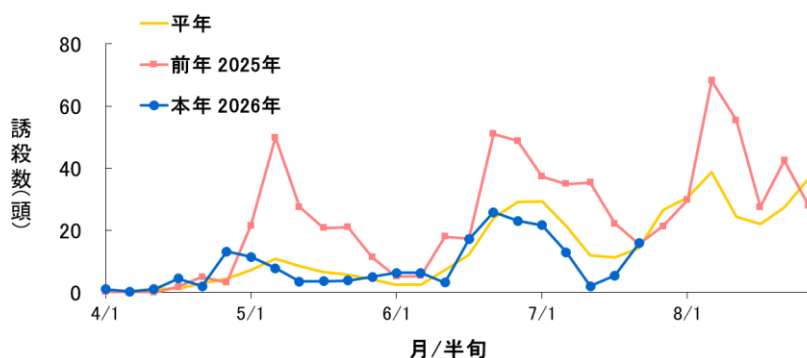


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市、三好市、東みよし町、石井町の6地点平均

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬剤効果が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵するので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

秋冬ネギ

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が77.8%、被害度は8.4と、平年(55.8%、2.4)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ (令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生圃場率が55.6%と、平年(34.7%)に比べてやや高く、寄生株率は4.0%と、平年(1.4%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月24～31日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が53.3%、被害度が1.9)。

(2) 高松地方気象台が7月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

IV. その他

1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。

2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

URL：<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。